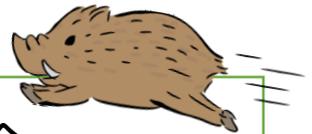




## 適切な豚熱ワクチン接種にご留意ください



県内で野生イノシシの豚熱陽性事例が急増しており、農場での発生が危惧される昨今、以下にお示しする事について整理し、今一度、豚熱ワクチンについて、適切な接種時期を確認しましょう。



### ポイント 1

#### 第一世代の繁殖豚がほぼいなくなり、第二世代以降へ

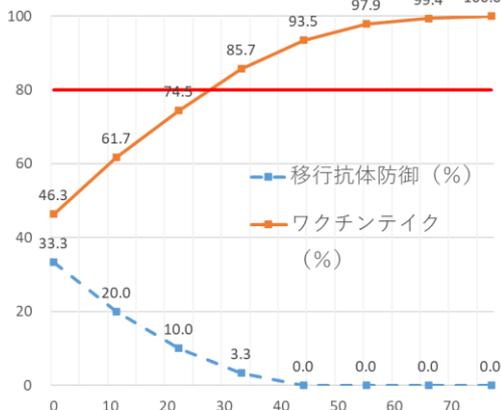
2019年10月に接種が始まった豚熱ワクチンですが、2024年となった今、第一世代\*の豚はほとんど更新され、第二世代以降の繁殖豚に代わっています。

【※第〇世代】2019年に初めて接種した豚を第一世代、第一世代から生まれた繁殖豚を第二世代と呼びます。第一世代豚は初めての接種のため、抗体が高く上昇する特徴があり、第二世代以降は第一世代から抗体を受けるためそれほど高くはなりません。



### ポイント 2

架空の農場です



#### 親からの移行抗体は11日おきに半減していく

国等の研究によれば母豚の初乳に含まれる抗体(移行抗体)は11日おきに抗体価が半減していきます。これを利用し、繁殖豚の抗体価を調べることで、子豚への接種適期を推定できます。**子豚の接種適期は移行抗体が16~32倍の時です。**

例えば、親豚の抗体価が128倍であれば、子豚の移行抗体を0日齢で128倍と考え、11日齢で64倍、22日齢で32倍…となり、30日齢弱ぐらいを接種適期としています。

### ポイント 3

#### 自農場の適切な接種時期を確認

最近では30日齢前後での接種農場が多い傾向にありますが、接種適期は様々な要因によって、農場ごとに異なります。家保の豚熱免疫付与状況調査により、適期を毎年確認してください。



### ポイント 4

#### 繁殖豚の接種を忘れずに!

繁殖(雌雄)豚についても継続的に接種が必要です。自家産であれば、初回は他の子豚と同じ時期に、2回目はその半年後、3、4回目は1年に1回、最低でも4回の接種をお願いします。

